

「（仮称）千代田区こどもカルテシステムの構築」について

令和7年10月28日
総合教育会議資料
指導課

はばたきプラン

保育支援シート

就園支援シート

就学支援シート

教育支援シート

妊娠～18歳

0～6歳

2～3歳

5～6歳

3～18歳

課題

- 各種支援シートが多岐にわたり、一覧性がないため、引継ぎや最適な支援につなげることに時間を要する
- 保護者は基本情報等を毎年記入する必要があり、かつ、作成したシートの確認から同意までしなければならず、支援を受けるための負担が大きい
- 子どもの支援や成長について過去に実施した支援を統合的に把握することが困難であり、最適な支援策が見いだしづらい

「（仮称）千代田区こどもカルテシステム」の構築により、各種支援シートを統合することで解決

機能		可能となること
各種シートの情報統合		<ul style="list-style-type: none"> スムーズな引継ぎと、対象児の成長と課題を踏まえた継続的かつ計画的な支援が可能に 基本情報等がシステムから取得可能となり記入の負担軽減に
アクセス権限の設定		<ul style="list-style-type: none"> アクセスを関係者に限定することで情報漏洩リスクを減らしながら 必要情報の迅速な把握が可能に
令和8年度以降に検討	申請機能	<ul style="list-style-type: none"> 保護者サイトからオンライン上で申請可能に
	同意確認機能	<ul style="list-style-type: none"> 作成したシートの確認から同意までをオンラインで可能に
	A I の活用	<ul style="list-style-type: none"> A I を活用し効果的な支援が可能に
	健診情報との連携	<ul style="list-style-type: none"> 発達に係る健診情報と連携し、早期に発達課題の把握と支援を実施

令和7年度

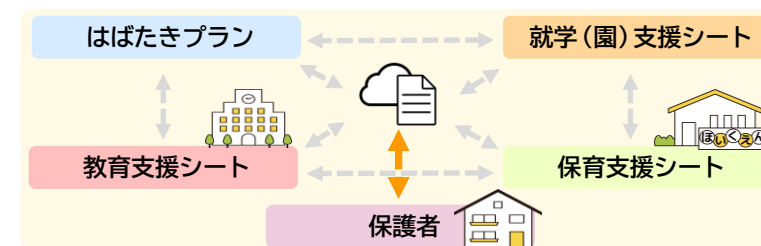
令和8年度

令和9年度

各種シートの情報統合等
に向けた
システムの構築

機能拡充の検討

システムの運用



世界の共通言語である英語を活用し、主体的にコミュニケーションを図る活動を通して、グローバルに活躍する子どもたちの育成を目指します

外国籍の子どもや保護者への生活サポート

令和8年度 「国際教育の推進」主要事業		幼児教育段階			小学校教育段階						中学校教育段階			高等学校教育段階		
		4(年少)	5(年中)	6(年長)	7(小1)	8(小2)	9(小3)	10(小4)	11(小5)	12(小6)	13(中1)	14(中2)	15(中3)	16(高1)	17(高2)	18(高3) (歳)
英語コミュニケーション力の推進	R8拡充 外国人講師（ALT）の派遣 年間派遣時数 幼稚園・こども園：35時間 + 小学校：低学年21時間、中学年55時間、高学年70時間（1学級）【併設幼稚園(こども園)・小学校合わせて年間190日(週4～5日)派遣】 中学校：105時間【年間160日(週3～4日)派遣】															
	R8拡充 英語体験活動（TGG） 利用学年を小学校5年生に拡充(中学校2年生は除外)															
多文化理解の促進と国際感覚の育成	R8拡充 英語体験活動（イングリッシュ・デイキャンプ）	中学校2年生では地域資源を活用した体験活動を実施														
	英語に関する学力調査（英検）															
	中学校・中等教育学校全学年の英語に関する学力把握のため、年1回校内実施															
	九段中等教育学校における先進的英語カリキュラム															
	・英語を活用して実践的なコミュニケーションができる力を育成する授業実践 ・ブリティッシュヒルズでの語学研修、オーストラリア・シンガポールへの研修旅行、UCLA海外派遣研修(希望者対象)															
	国際教育推進校における英語によるコミュニケーション機会の充実															
	令和7年度は九段小学校を指定、英語コミュニケーション力の推進・国際感覚の醸成に向けた先進的な実践を展開															
	外部人材を活用した体験・交流機会の創出（庁内国際交流所管課、区内公益財団法人等と連携した活動実施）															
	近隣大使館等と連携した国際交流活動の推進（地域資源である大使館等の国際交流機関との連携）															
	オンラインを活用した国際交流活動の試行（海外在住の外国人講師、海外現地校児童・生徒との交流）															

令和8年度 リテラシー教育の推進

令和7年10月28日
総合教育会議資料
指 導 課

「ちよだリテラシー教育」の推進

1 背景

SNS等の普及により、インターネット上で誰もが容易に自己発信ができ、その情報を簡単に入手できる社会となった。こうした社会の中では、自分の考えをしっかりとちながら情報を読み解き、判断し、周囲に流されることなく行動すること、そして現実社会における人と人との触れ合いの中で自分を見つめ直すことが重要である。
(千代田区子育て・教育ビジョンより)

育成する力

事実と意見を
区別する力

批判的に
読み解く力

発信者の意図を
考える力

類似情報を
比較する力

善悪を判断して
行動する力

目指すべき子どもたちの姿

情報を読み解き
自己の信念に従って
行動ができる人
(千代田区子育て・教育ビジョンより)

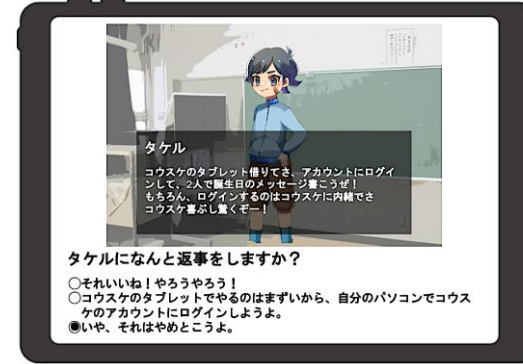
自分の考えを
形成する力

2 ちよだリテラシー教育について

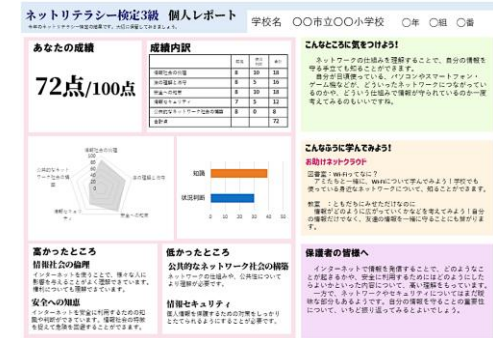
リテラシーとは、特定の分野に関する知識や理解力、その知識を活用する能力のことであり、ちよだリテラシー教育では、特に「メディアリテラシー」を中心に育成を図っていく。
「メディアリテラシー」とは、メディアから得られた情報を批判的に分析し、評価し、適切に活用する能力のことである。具体的には、テレビ、新聞、インターネットなどのメディアが伝える情報の真偽を見極め、偏りや誇張を理解し、情報を正確に解釈する力のことである。

- 学校での取組
- (1) 国語科を中心とした言語能力を育む指導の充実
 - (2) 読書活動の充実
 - (3) 資料やデータの見方・活用における指導の充実
 - (4) 情報モラル教育の充実
 - (5) AIなど新たな技術の体験・活用

① 区独自のメディアリテラシー検定及び教材開発



画面イメージ：状況判断編



画面イメージ：個人診断レポート

- ② 小学校高学年から授業で生成AIを活用
- ③ 読解力向上ワークシートの導入
- ④ 子ども新聞、中高生新聞を配架

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
①メディアリテラシー検定					●	→	→	→	→			
②学校用生成AIシステム「アイミー」					●	→	●	→	→	→	→	→
③読解力向上ワークシート					●	→						
④子ども新聞、中高生新聞	●	→	→	→	→	→	●	→	→	→	→	→